

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470501952
法人名	光電産業株式会社
事業所名	グループホーム(夢)
所在地 (電話番号)	広島県呉市焼山本庄4丁目2-18 (電話) 0826-25-3080

評価機関名	広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年5月13日

## 【情報提供票より】(平成21年2月28日事業所誌)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8人
職員数	12人	常勤	2人, 非常勤 10人, 常勤換算4.2人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3階建て	1階 ~

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	管理費20,000円	
敷金	有( )円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(180,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	350円	昼食	450円
	夕食	550円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名	
要介護1	1名	要介護2	1名			
要介護3	3名	要介護4	0名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	84.3歳	最低	78歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田口医院 こたち胃腸内科 済生会呉病院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム(夢)は、呉市の高台にある団地の中に位置しています。ホームは、「利用者に役割を持っていただきながら、家庭的な雰囲気の中で介護をしたい」という開設者の理念を全職員が共有し、家族に接するのと同じような気持ちでサービスを提供するアットホームな事業所です。また、建物の2階、3階は、地域の人たちが自由に集まり、ボランティアや文化活動を行う拠点となっており、1階にあるグループホームの入居者にも気軽に声をかけていくなど、温かいふれあいが日常となっています。また、地域行事への積極的な参加、隣接するデイサービスセンターとの頻繁な交流など、楽しみや外出の機会を多く持っておられます。ホームの屋上からは、呉の町並みが一望できるので、開設者は、エレベーターを設置し、「屋上へ上がって利用者が納涼会や花見を楽しんでいただけるようにしたい」との希望もふくらませておられます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価で浮き彫りになった課題については、改善策を話し合い、着実に解決されています。運営推進会議のメンバーに自治会の参加を得たり、市担当者との連絡を電話で行うようにするなど、着実に地域に根付くための取り組みが行われています。また、家族への報告では、写真をDVDに編集し、家族会で披露し、好評を得ています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングを活用して、管理者が中心となり自己評価を取りまとめておられます。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、自治会長、民生委員、家族代表、市職員、地域包括支援センター職員で構成され、2か月に1回、定期的に開催されています。ホームの様子を知っていただく中で、参加者からホーム前の道路が危険な状況であることについて、市に工事を提案するなど、ホームに対する理解が深まりつつあります。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	地元出身の利用者が多く、家族の訪問もたびたびあるので、その都度、いろいろな意見を聞くようにしておられます。運営推進会議や家族会で出された家族からの意見は、職員間で検討し、運営に反映するようにしておられます。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、盆踊り、夏祭りなどの地域行事にも積極的に参加しておられます。散歩中にも利用者と地域の人たちが声をかけ合うなど、地域の人たちとも顔なじみの関係ができています。併設のドリームサロンを利用する地域の人、ボランティアとしてホームを訪問したり、手作り品のさし入れも受けるなど地域に溶け込んだホームとなっています。

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔、思いやり、感謝、感動」という理念を定め、共有スペースからよく見えるところに掲示されています。 理念は、代表者がこのホームを開設した時の思いを言葉に置き換えたものです。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで、社会福祉援助の基本ともいえる「バイステックの7原則」とともに理念の確認を行っておられます。 職員も「利用者に感動をいただきながら、職員も笑顔で過ごす」という意識を持ち、日々のケアにあたっておられます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、盆踊り、夏祭りなどの地域行事に参加しておられます。地域の人たちとも顔なじみになっており、散歩中も気軽に声をかけあう関係にあります。 ホームの2階、3階にある併設の「サロンドリーム」に集う人たちの訪問もあります。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勤務体制の関係から、全職員が集まって、自己評価を行うことが困難なため、あらかじめ評価項目を職員に見てもらい、最終的には管理者が自己評価をとりまとめています。 毎年、「自己評価を行ってよかった」という声が出てくるよう、改善に取り組んでおられます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族等の参加を得て、2か月に一回開催されています。ホーム前の車道が危険な状態になっていることについて、参加メンバーから修繕提案があがるなど、ホームに対する理解が深まりつつあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と電話で連絡を取るなど、連携をとる努力を重ねておられます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に3回、家族会を持ち、誕生会などの行事で撮影した写真を編集し、DVDで観てもらっておられます。 家族にも、利用者の暮らしぶりが一目で分かり、大変好評を得ています。		現在行き来のあるボランティアの協力を得て、「家族だより」を発行し、ホームを理解していただく手段を充実されることを期待します。
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問は、頻繁にあります。運営推進会議や家族会等の機会を捉えて、意見を聞くようにしておられます。 家族が手作りの夏場に居室前にかける暖簾や冬季の散歩のためのケープ(肩掛け)等の寄贈を受けるなど、利用者が快適に過ごせるための提案が寄せられています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は、デイサービスセンター、ヘルパーステーションも運営されており、ホームとデイサービスセンターで交流するなど、法人内の職員が利用者と同様になるような工夫が行われています。 このため、異動があった場合でも、利用者は顔なじみの職員からの支援を受ける体制にあります。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	非常勤職員の割合は高いものの、希望する研修には参加することができます。ミーティングの機会に、研修報告を行い、得た知識を職員が共有しています。 最近では、市内の医療機関が主催する救命研修に参加されています。また、特技を持つ職員が多いため、職員同士で得意なことを教えあうこともあります。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会や隣接する市が主催するネットワークに参加し、交流の機会をもたれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用者は、これまで近隣に住んでいた地元出身であったりと、既に顔なじみの関係です。新しくサービスを利用される場合には、体験利用を行ったり、職員が訪問するなど徐々に利用の機会を増やすなどの配慮を行っておられます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の身体状況と希望に応じて、役割をもつていたり、参加を呼びかけておられます。訪問当日は、昼食の下ごしらえとして、野菜を切る光景が見られました。歌の好きな利用者には、「のど自慢」に出るという目標を提案するなど、一人ひとりにゆっくり年を重ねていただくという思いで支援されています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人に関する情報を得ることもありますが、利用者の様子を日々観察するなかで、思いや意向の把握に努めておられます。また、不穏な状態になった利用者に対しては、薬で対応するのではなく、一緒にお茶を飲んだり、話をしたり、一人ひとりの思いを丁寧に受けとめておられます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、日々の利用者の様子を観察して得た情報や本人、家族、関係者から話を聞いた内容を総合的に勘案して、作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日行われる申し送りやミーティングで利用者の変化を把握しておられます。定期的な見直しは、6か月ごとに行われています。身体的、精神的な変化が見られた時は、職員で話し合い、必要に応じて新たな計画を作成するようにしておられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内に短期入所用の居室が1室あります。隣接のデイサービスセンター利用者が利用することもあり、法人が行っているサービスを利用者の要望に応じて活用するなど、柔軟な支援体制があります。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診は、家族の協力を得ながら行うことを基本にされています。難しい場合は介護タクシーを活用して受診を支援しておられます。また、協力医療機関からの定期往診が行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医学的処置の必要な場合を除き、利用者を最後までホームで看取る方針を持っておられます。本人の思いを聞くと共に、家族とも話し合いを行い、方針を共有するようにしておられます。実際に、訪問看護を利用しながら終末期の支援をした事例も持たれています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する尊敬の念を持ち、呼称は「さん」付けとする、「です。ます」調で会話をする、個人的な会話は居室で行うなど、プライバシーに配慮されています。また、個人記録などは、鍵のかかるロッカーに保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮した食事の提供や、利用者の希望やペースに合わせた支援が行われています。散歩や日向ぼっこ、ドライブの他、希望があれば買い物や隣接のデイサービスセンター等への外出も支援しておられます。この他、焼肉パーティー、たこ焼きパーティー等、ホームの中での楽しみも計画されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、利用者と一緒に食事の支度をしておられます。利用者は、個人用のコップや茶碗で、自分たちが作ったものを食べるという満足感を味わっておられます。訪問当日も、野菜を刻む音、出汁の匂いがたまたま中、野菜のみじん切りや和え物の混ぜ合わせをする光景が見られました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は、24時間風呂が設置されており、利用者は、ほぼ2日に1回の頻度で入浴しておられます。また、排泄の失敗等の場合は、保清のため、その都度入浴されています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	町内で行われる夏祭りへの参加、花見やデイサービスセンターの行事への参加、散歩など、目的を持った外出が支援されています。また、敷地内の日当たりのよい場所での日向ぼっこは、利用者にとって大きな楽しみの一つになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は、できる限り外出することを心がけられており、利用者は、車椅子を利用して散歩することが日課となっています。訪問当日は、隣接するデイサービスセンターで行われるボランティアによる音楽会に出かけ、一緒に歌を歌って楽しんでおられました。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は、安全面から施錠しますが、日中は居室にも玄関にも鍵はかけられていません。共有スペースと玄関の間は、アクリルガラスが嵌めこまれており、人の出入りが把握しやすい構造となっています。また、外出する利用者には、さり気なく付いて行くなどの配慮が行われています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会の非常災害時名簿に組み入れてもらうことにより、災害時に地域の協力を得る仕組みを作っておられます。地域で行われる火災訓練にも参加しておられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	繊維質の多い素材、旬の素材を使った食事が提供されています。ホームのこだわりとして、調味料はすべて無添加の自然食材を使用されています。 食事摂取量、水分量については、記録し、申し送りにより職員全員が把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口には、季節を感じさせる花が華やかに活けてあります。共有スペースは、ブラインドにより過ごしやすい明るさに調整されています。 ゆったり過ごせるように、ソファーや畳が配置されている他、足元には一人ひとりに合わせた足置き台が置かれ、身体が安定するように工夫されています。また、床暖房により、冬季も温かく過ごせるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、お気に入りの絵や花が飾られていたり、なじみの家具、ソファーが配置されたり、落ち着いて過ごせる雰囲気があります。 ボランティアが和服をリフォームした暖簾の寄贈を受け、利用者が好みのもを選んで居室入り口に掛けるなど、温かみのある個性的な居室が作られています。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム（夢）

評価年月日 2008 年 3 月 26 日

記入年月日 2009 年 3 月 9 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 代表者 氏名 今本 良子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

## I 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「笑顔・思いやり・感謝・感動」の思いを常に持つことを介護の基本とし、書いたものをよく見えるところに掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングの都度、全員で理念の思いを話すようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	利用者が地域の方々とも笑顔・思いやり・感謝・感動の思いで過ごせる様、家族の方にも家族会などで話している。		

### 2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	いつでもグループホームは開放しており、散歩などで顔なじみとなるようスタッフも声を掛けている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事（盆踊り・祭り・とんど等）に参加し交流している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	グループホームの2階にサロンがあり、常に地域の高齢者の方々の情報などキャッチして出来ることはないか話している。		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングなどで説明し、話し合い改善することになっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	話し合った事を日々の生活に取り入れたりケアプランに反映している。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者の方と電話で連絡を取りあっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ミーティングで学ぶ機会を持っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の機会あれば参加するようにし、ミーティング等で話しあっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	面会時や家族会などで不明なこと、不安なことの話し合いを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の不満などには、出入りのボランティア・近所の方などと話しが出来る様オープンにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族会を4ヶ月に一回行っておりDVDで日頃の様子を知らせている。		グループホーム便りなど、定期的に発行していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見は家族会等で話し合っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングを月1回は必ず行い、意見を聞き反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	介護事業所全体でシフトを動かせるよう管理している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	介護事業所全体で利用者となじみの関係をつくるよう努力している。		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく研修に行ける機会を多くし、社内では出来る限り経験豊かなスタッフが指導しトレーニングしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	横でつながるよう交流するサークルには参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休み時間はなるべく自由にでき、決められた時間は必ずとるように指導している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	個々のスタッフの良いところを見るようにし、考え方など同じ方向になるよう仕事の目的、介護の目的など話し向上している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	利用に至るまでに自宅の面接の機会をつくり、本人自身から話を聴いたり夢の見学をしていたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	自宅を訪問したり夢の見学に来ていただいたりし、話を聴く機会をつくり対応している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族等と話し合いながら介護事業所全体で必要としている支援の対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	介護事業所全体で徐々に馴染みの関係作りをしながらデイサービス・グループホームの季節の行事にも参加して頂いている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や味付けなど、手伝える入居者には参加を呼びかけ、なるべく共に行っている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族も気軽に訪問できる雰囲気作り、誕生会・他の行事など一緒に楽しんで頂いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族会や面会時にゆっくり話をしながら情報を交換している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ソファ・ベッドなど使い慣れた生活用品や装飾品などを持ち込み、家族が入りやすく地域の方も気軽に訪ねて頂けるように開放している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ソファや畳の間で、自由にくつろげる空間や庭や花をみたり植えたりしながら楽しんでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サロンなども開放しているので終了しても訪ねてきてくださる。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの居室にて話を聞き受け入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時や家族会などで一人ひとりのこれまでの履歴を聞いたりしながら把握するよう取り組んでいる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフが入居者の毎日の心身状態の情報を共用しながら対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成担当者が本人・家族・スタッフなどの意見を聞きながらケアプランを立てて取り組んでいる。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況の変化に対応しながら話し合いをし、新たな計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送りや個別のケース記録など情報を共有し対応できるようにしている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	デイサービス・ショートなどの利用を支援している。		
----	--	--------------------------	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	サロンを作り地域の方との交流を深めている。		
----	---	-----------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	話し合いをしながら要求があれば対応できる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談し協力していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	それぞれの希望する医療機関には家族の協力も得て通院している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	呉済生会の心療内科の受診が出来る。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	スタッフの看護職員と相談しながら行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の担当医や婦長さんとの話し合いで退院後の準備受け入れを決めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族会の時などターミナルケアの話し合いなどを行っている。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医や訪問看護との契約によりチームとしての支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	家族・本人と十分な話し合いが出来るような機会を作っている。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

##### 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとり居室にて話しを聞き受け入れている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人と目線を同じようにして傾聴し、コミュニケーションをとりながら希望にそって支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝御飯の時間も起床した人から食べて頂く様ペースを大切にしている。散歩などもレベルに合わせている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ボランティアによるイオンマッサージでマッサージやお化粧などして頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や味付けなど聞きながらお手伝いできる方には調理への参加を呼びかけながらなるべく共に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お茶の時間など好みのものをのんでいただくようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	夜間のみ紙パンツを使用し日中は布パンツにてトイレ介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	24時間対応の風呂の為にいつでも入浴できる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	散歩などなるべく日中体を動かすようにして薬に頼らない生活リズムをつくるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	季節の行事や自治会などの行事に参加しながら日々楽しみながら過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	本人の金銭管理は難しい為家族の方が管理されている。小遣い程度はもっておられる方もいるので買物の際自分の財布から支払っていただくようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望を聞きながら散歩や近隣の方とお話をしたりデイサービスに立ち寄ったりさせられている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	お盆などのお墓参りの希望を聞きながら支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話は使用できると話してありかけるときは介助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由にいつでも気軽に訪問していただき居室やリビングなどでお茶など飲んでいただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者を見守り自由に行動してもらっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は鍵をかけるが日中は玄関も居室も鍵はかけない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	台所や居室から常に利用者の動きや様子を把握し安全に配慮しながら気を配って行動している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	鍵のかかる場所に来るだけ保管するよう取り決め実行している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が1件あったのでその時に報告書の徹底を計った。話し合いも出来ました。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	ミーティングを行い色々な状況の話し合いをしながらイメージトレーニングを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	自治会とも連絡網があり協力を得られる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	定期的な家族会で話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃のバイタル状態など把握し毎日の申し送り時に情報を共有し、異常時は主治医の受診で対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフが1日分の管理をし、それぞれに服薬の介助・チェックをして記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	自然排便に取り組んでいる為、繊維を多く含んでいる食事や飲み物、出来るだけ体を動かすよう働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの実施、週1回のポリデントによる洗浄。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとり記録して気をつけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修や本などで順次勉強して協力医の指示で実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な旬の食材を使用し調理も工夫している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節の草花等を玄関先に植え表札もオリジナルで気配りしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ソファや畳の間にお雛様を飾ったり床暖房があったり自由にくつろげる空間がある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや畳の間があったり自由にくつろげる空間がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたベットやソファ・装飾品など生活用品を持ち込まれておられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	スタッフがなるべく管理し適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	滑り止めや手すりなどの設備・ベットなどの入れ替えなどして工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者一人ひとりが自分が決めたり希望を聞くようにしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	駐車場などを利用し運動したり日向ぼっこなど行なっている。		